

種子島家墓地「御拝塔墓地」調査

現地説明会



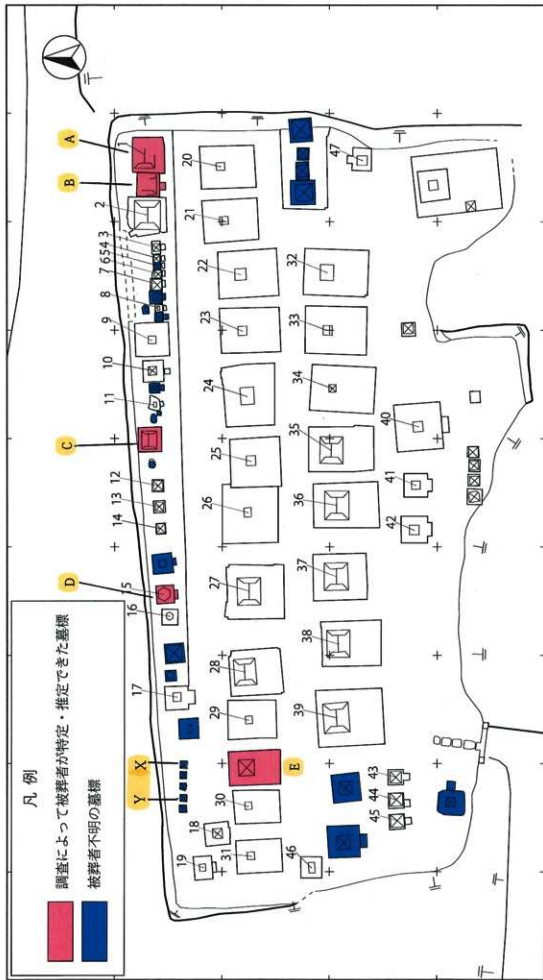
御拝塔墓地

- 期 日 令和6年(2024)2月18日(日)
- 時 間 1回目 10時～
2回目 13時～
- 主 催 西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター「鉄砲館」)

御拜塔墓地被葬者

1	本華妙智	11	16代久弟 隆勝	21	26代時丸
2	17代忠時室 光瑞院殿妙国日鏡大姉	12	永俊尼 成等院殿妙正大姉	22	25代久尚
3	13代恵時 蓮住院日善大居士	13	喜入摂津守忠政室 遍照院妙身	23	25代久尚室 幸子
4	12代忠時 蓮松院殿日慈大居士	14	喜入摂津守忠政女 於鶴	24	19代久基 究竟院殿日等大居士
5	14代時堯 法性院殿日勝大居士	15	光岩院日珠居士	25	19代久基 自照院殿蓮友日耀大姉
6	15代時次 要法院殿日要大居士	16	14代時堯弟 時式 隆善大居士	26	19代久基 憲時事全院殿日理大居士
7	16代久時 世尊院殿日恕大居士	17	正建寺より 合改葬	27	20代久達 法連院殿日啓大居士
8	16代久時母 照鏡院妙住	18	23代久道母 圃法院殿妙覚日浄大姉	28	20代久達息 始時 誠誦院殿日孝大居士
9	18代久時 世雄院殿日尊大居士	19		29	竹子
10	17代忠時 勇猛院殿日深大居士	20	24代久珍女 初子	30	隣子

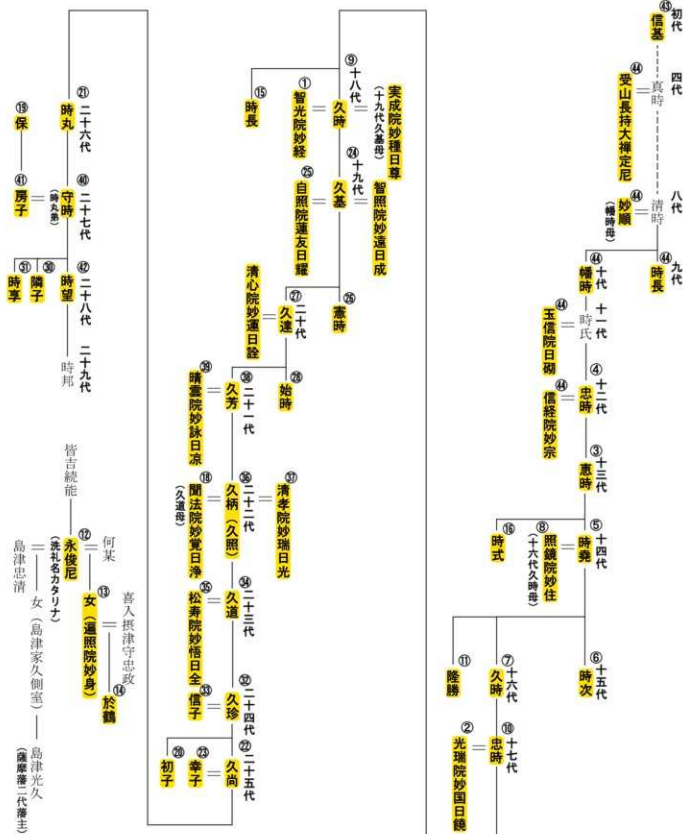
31	時享	41	28代時望母 房子	46	墓地由緒碑 (寛藏書)
32	24代久珍 慈登院殿日厚大居士	42	28代 時望	47	戦死招魂墓
33	24代久珍室 信子 宝慈院	43	初代信基 受封院殿日開大居士		
34	23代久道 放光院殿日悟大居士		4代真時室 受山長持大禪定尼		
35	23代名跡 松寿院殿妙悟日全大姉		9代時長 秀山		
36	22代久照 本光院殿日瑞大居士	44	10代幡時母 妙順		
37	22代久照室 清孝院殿妙瑞日光大姉		10代幡時 天融清幡		
38	21代久芳 大歡院殿日喜大居士	45	11代時氏室 玉信院殿日砌		
39	21代久芳室 晴雲院殿妙詠日涼大姉		12代忠時室 信經院殿妙宗		
40	27代守時				



御拝塔墓石配置図（番号は説明板による）

作成：（株）九州文化財研究所

種子島家略系図



(**) : 案内板の墓標の番号
 = : 婚姻関係
 [] : 御拝塔基地に墓標が存在する人物

種子島家墓地（御拝塔墓地）調査について（速報）

1. 概要

御拝塔墓地は、11代種子島時氏【文安4年（1447）～永正元年（1504）】の代に設けられたと考えられる。種子島家最初の墓地とされる、御坊墓地が埋め墓（亡骸を埋葬した墓）であるのに対し、御拝塔墓地は、詣り墓（墓参のための墓）である。（参考：種子島開発総合センター鉄砲館「種子島の石塔展」2021年）

ただし、文献等により亡骸を埋葬した墓も一部あると考えられ、今後のさらなる調査が必要である。また、「御拝塔」は、種子島家譜には「御牌塔」と記載されている。

御拝塔墓地には、墓石全71基、灯籠6基、墓地由緒碑1基の計78基が存在する。このうち、種子島家に関係すると思われる墓石は70基。現時点で、被葬者が判明するものは47基である。御坊墓地・御拝塔墓地は、昭和34年8月「種子島家墓地」として西之表市の文化財（史跡）に指定されている。

2. 御拝塔墓地の特徴

(1) 墓石の配置

- ①北側1列目：歴代当主を切り離し、列の中心部分に配置する。室（夫人）は同じ列にあるが、当主とは離れた位置にある（14代時堯室・17代忠時室・18代久時室・19代久基室・22代久照室）。
- ②北側2列目：当主・室・子女をまとめて配置する傾向にある（19代久基・20代久達・25代久尚）。
- ③北側3列目：当主・室をペアで配置する傾向にある（21代久芳・22代久照・23代久道・24代久珍・28代時望）。

(2) 墓石の向き

全て南向きとなっている。

(3) 墓石の法量（寸法）について

江戸時代前期（17世紀末）に没した人物の墓標石は、総高2mを超えるものが見られる。（17代忠時及び室、18代久時室、18代久時弟時長、19代久基室）。

享保3年(1718)10月、薩摩藩国老種子島久基(19代当主)より「諸人墓石並葬礼」に関する通達が出される。

「一 石塔一通 地上五尺五寸

但、石形八望次第、結構ノ模様八望有之候トモ彫付申間敷候

右、寄合並以上」(『鹿児島県史料 薩摩藩法令史料集三』、p30)

→「寄合並以上(薩摩藩での家格で、高い順に御一門・一所持・一所持格・寄合・寄合並と続く)の者の墓標の高さは「五尺五寸(約167cm)」までとする。形は希望次第とする。

薩摩藩では、家臣の墓標の巨大化を抑えるために、規制を加えた。種子島家墓地の北側には、意匠のない低い墓標(12代忠時～18代久時など)が並ぶが、これらの墓標は、この通達に沿って建てられた可能性がある。

ただ、延享元年(1744)8月没の20代久達(案内板番号27、総高231.9cm)の墓石以降は、通達に定められた法量を超えるものが見られるようになる。種子島家墓地においては、通達は一時的にしか適用されなかったことが推測される。

(4)墓石の形状について

- ①石廟(家祠形):当主9基、当主夫人7基。うち7基(当主4基、夫人3基)の本体は後世に補修(一部及び全部)されている。
- ②方柱墓・方形墓(笠付・突頂・平頂):当主9基、当主夫人3基、当主子弟4基、合葬墓2基、その他4基、不明10基
- ③宝篋印塔:当主1、不明5基
- ④五輪塔:当主夫人2基、不明5基
- ⑤六角柱墓(笠付・平頂):当主1基、当主子弟1基

(5)墓石の石材について

- ①黄色溶結凝灰岩:岩片や軽石を含む火砕堆積物。指宿市の山川福元で産出する「山川(やまがわ)石」に似ているが、同市で産出する池田石や大谷石にも似ており、さらなる調査が必要。当主5基、当主夫人1基、当主子弟2基、その他4基、不明3基。

②溶結凝灰岩

③花崗岩：中世のものと思われる大和西大寺様式の五輪塔。花崗岩は種子島では産出しない。そのため、島外から運ばれたと考えられている（前掲「種子島の石塔展」、2021年）。鹿児島県歴史・美術センター黎明館の西野氏は、鹿児島県志布志地域で同種の中世五輪塔が確認できており、ここを産地と推定している。

(6)花立（花瓶）

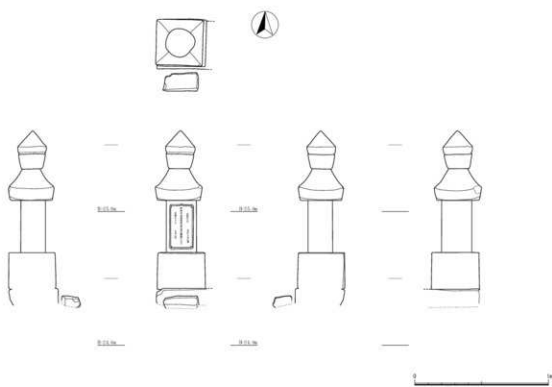
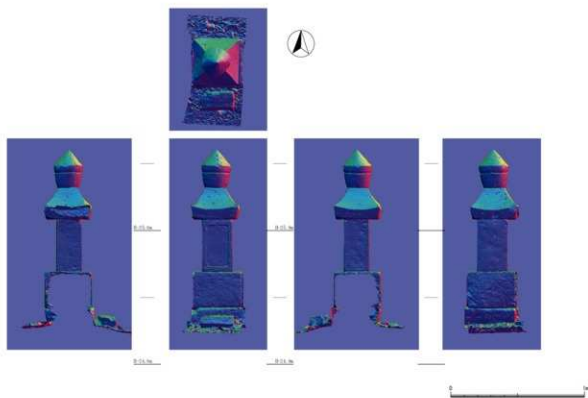
一部に唐門を模した廟型の意匠が見られる（19代久基夫妻及び子恵時、20代久達及び子始時、21代久芳夫妻、22代久照夫妻、23代久道夫妻）。伊作島津家にも意匠を施した花立が見られるが、廟型は見られず、種子島家オリジナルの形と考えられる。

3. 新たに被葬者が確認できたもの

- A (1)十八代種子島久時夫人智光院（案内板番号1、種子島時成・時房・日時母）：元禄14年（1701）8月19日没
- B (2)〔十九代種子島久基夫人智照院妙遠日成〕：墓標銘は「妙法智〔 〕大姉」と判読できる。種子島家関係者で、(1)智光院の他に「智」の付く法名は、管見の限りこの人物のみ。貞享4年（1687）12月28日没。
- C (3)十八代種子島久時夫人実成院（十九代久基母）：延宝7年（1679）11月2日没
- D (4)十八代種子島久時弟 時長（案内板番号15、光岩院日珠居士）：正徳4年（1713）3月13日没
- E (5)〔二十代種子島久達夫人（始時および二十一代久芳母）清心院妙運日詮大姉〕：墓標銘は「〔 〕詮大姉」と判読できる。種子島家関係者で「詮大姉」の付く法名は、管見の限りこの人物のみ。宝暦5年（1765）12月頃没。

4. 銘文は判読できるが被葬者が比定できないもの

- X (1)「天正十二年甲申／□□月廿日／南無妙〔 〕大徳位」
- Y (2)「永□〔禄〕四年辛酉／六月十六日／南無妙法蓮華□〔経〕〔 〕灵」



No. 05 「第 14 代 時堯 法性院殿日勝大居士」 墓石実測図

作成：(株)九州文化財研究所

薩摩藩家臣団の家格は、正徳元年「1711年」までに以下のように整備された。

- 御一門 (4家、私領主)
- 一所持 (30家、私領主)
- 一所持格 (13家)
- 寄合、寄合並 (約60家)、これらが上士層とされた。

御一門・・・島津氏の分家のうち家格の高い、四家(重富・加治木・垂水・今和泉)のことで、宗家に跡継ぎがない場合、御一門の中から選ぶことになっていた。

種子島家本家は久珍の代、一代ながら、それまでの四家格から御一門格に扱われるようになった。

四家格・・・大身分とも呼ばれ、日置島津家・花岡島津家・都城島津家・宮之城島津家、四家のこと。(儀式序列において御一門に次ぎ、国老(家老)よりも前とされた。)この四家は他家よりも重んじられ独特の待遇を受けており、御一門の四家を加えて八家とし、種子島家本家を加えた、九家が特に重んじられていた。

■薩摩藩家臣団配置図

—嘉永五年（1852）における—

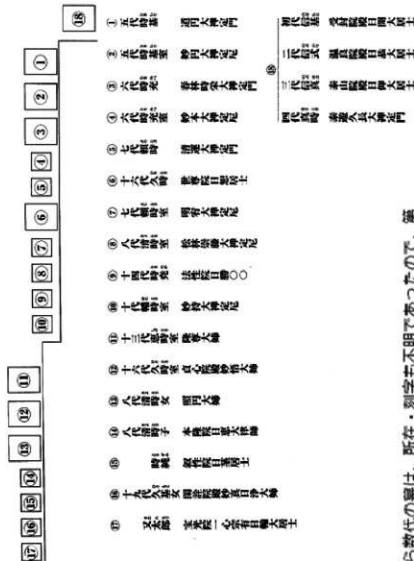


「鹿兒島古寺巡礼」川田達也著 2018 南方新社より

御坊墓地



配置図



ここは、島主権子鳥氏の最初の墓地である。初代から数代の墓は、所在・刻字も不明であったので、第23代久遠夫人松寿院が、初代信基から4代真時までを一墓にまとめ、法号を刻み語り墓とした。武村第16代久時、扶徳伝来の第14代時秀の墓などがあ。この周囲に、入島当時の家臣20家の墓がある。